

令和4年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連講師人材養成事業 研修会

各論⑦

在宅ケアにおけるリハビリテーションの役割

東京都リハビリテーション病院 医療福祉連携室長

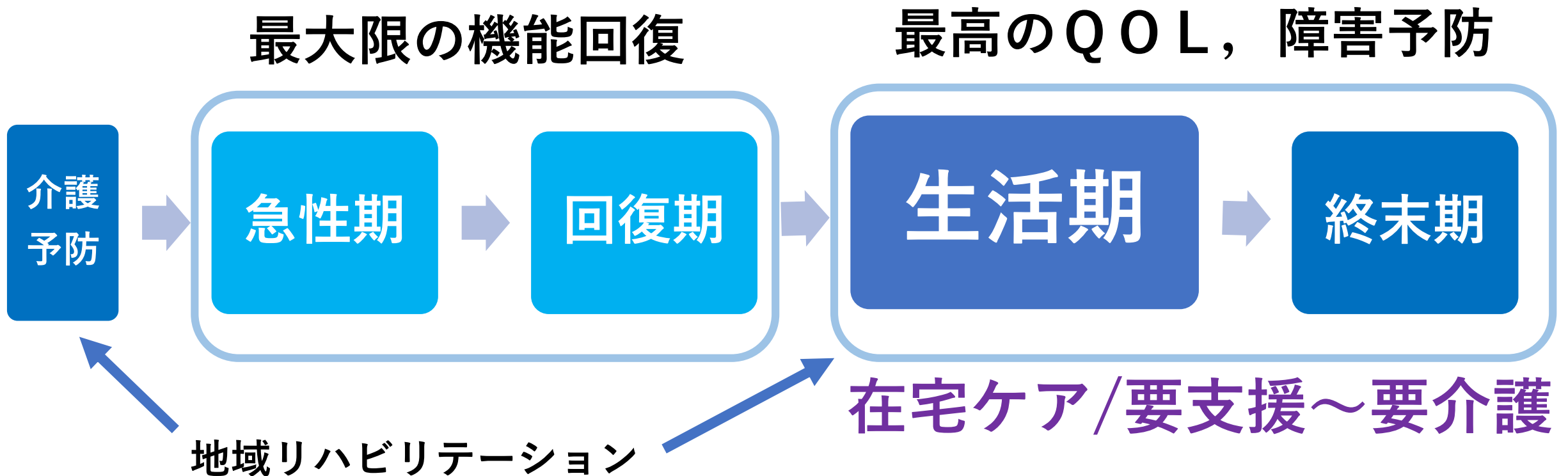
堀田 富士子

在宅ケアにおけるリハビリテーションの役割とは

- 高齢社会では**要介護はnew normal**。誰にでも**リハビリ**が必要。
- 在宅ケア≡生活期のリハビリテーションの最終目的は、最高の**QOL**と二次的な**障害予防**、そして**介護負担軽減**にある。
- 在宅ケアにおけるリハビリテーションは自立を念頭おいた**生活支援**から。生活のしづらさを**緩和**し、何かできないかな、を支える取り組みを指す。
- 「どのような境遇であっても人をより健康に、幸福にしていたのは、“**よい人間関係**”」（ハーバード成人発達研究）を保ち健やかに過ごせるように「**活動と参加**」を支援するのがリハビリテーションの役割。

高齢社会では要介護はnew normal.

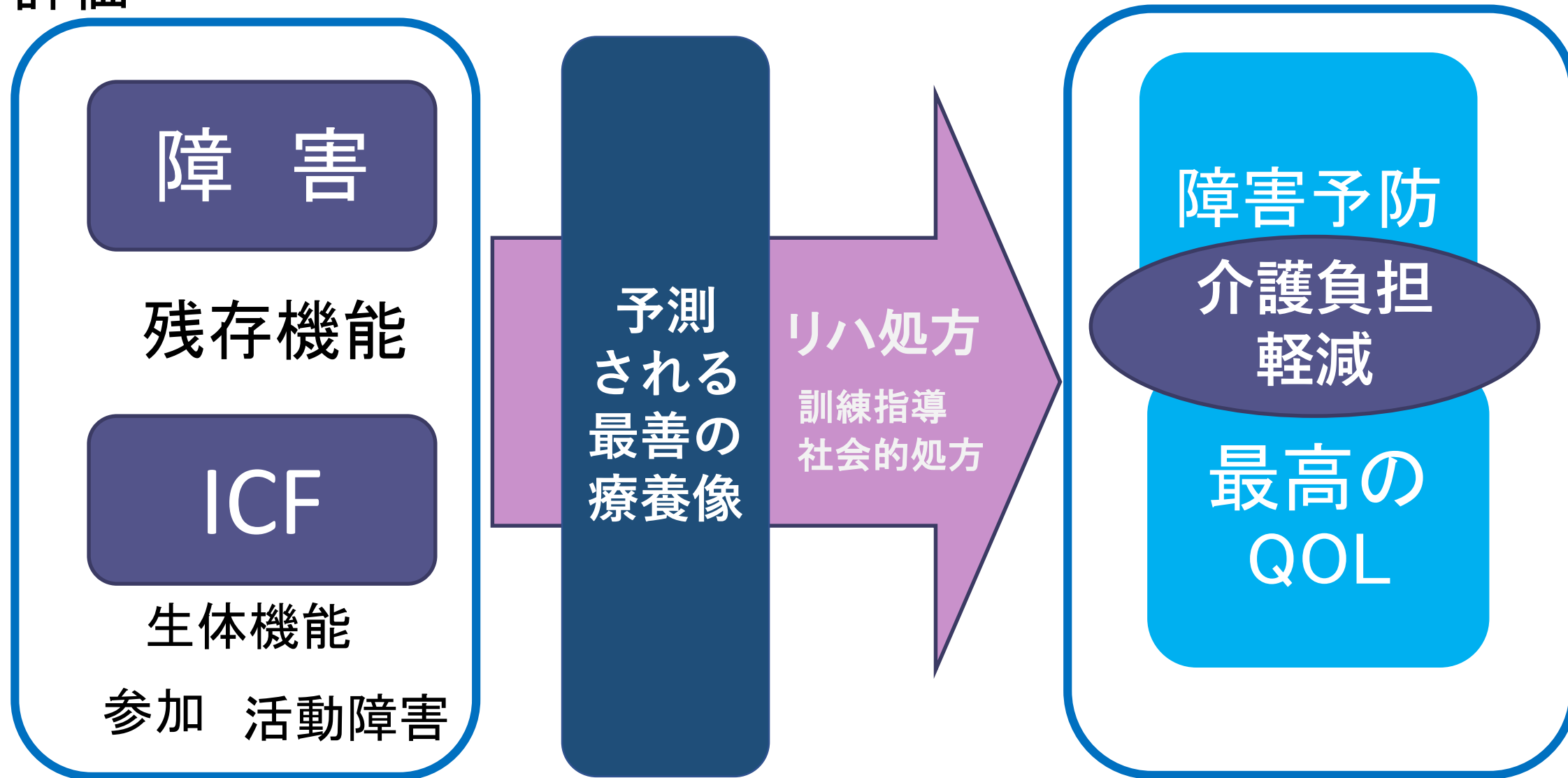
誰にでもリハビリが必要！



各ライフステージでのリハビリテーション

リハビリテーションの視点

評価

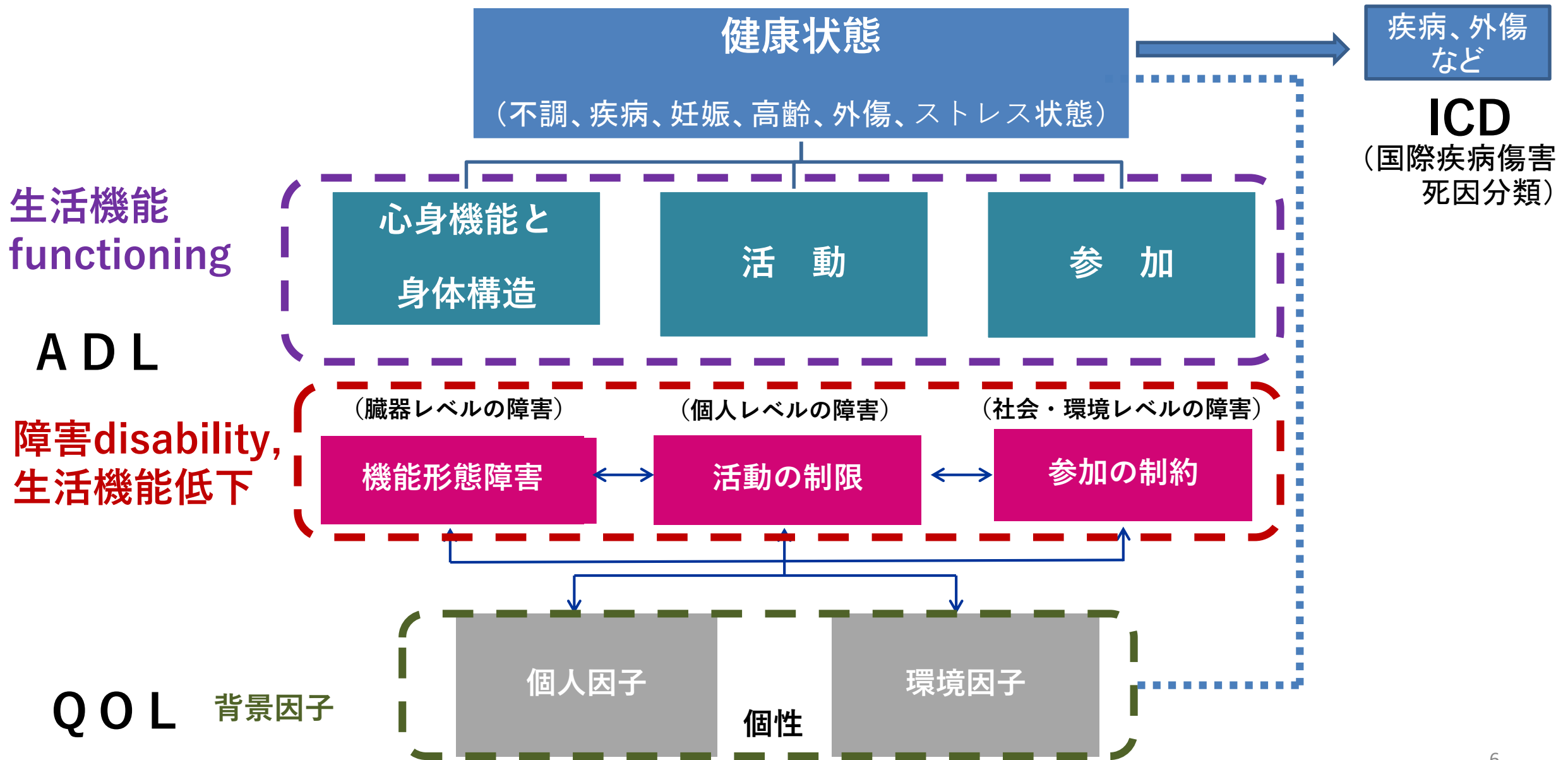


多層的な**障害**を検討する枠組みは 「**国際生活機能分類**」 日本語訳

International Classification of Functioning, Disability and Health; **ICF**

- 正式には「生活機能・障害・健康の国際分類」
- 世界保健機構WHOでは、
ICFと国際疾病分類ICDの併用により、
病気だけでなく、生活全体を見ることを推奨。
- ポイントは“分類”ではなく、“生活機能状態をつかむ方法”としてICFモデルを活用すること。

国際生活機能分類 ICF の概念モデル



リハビリテーションで**生活支援**、 **生活のしづらさを緩和**する

- 退院後など状態像の変化があった時、環境設定と自宅での直接指導で**新生活へのソフトランディング**を図る。
- **評価**（何が出来て何が苦手か）⇒**アプローチ**（出来そうなことを練習。環境をセッティング）⇒**モニタリング**（安全に実施できるか、いつもできるか、食事内容や内服なども含めて生活全体で実施）。

例）環境設定のポイントは

家の**出入り**（玄関、縁側など）と
家の中の**個室**の利用（トイレ、入浴）。
キーとなるのは「**食事・排せつ・清潔**」

利用者への生活
支援は介護負担
軽減にも。

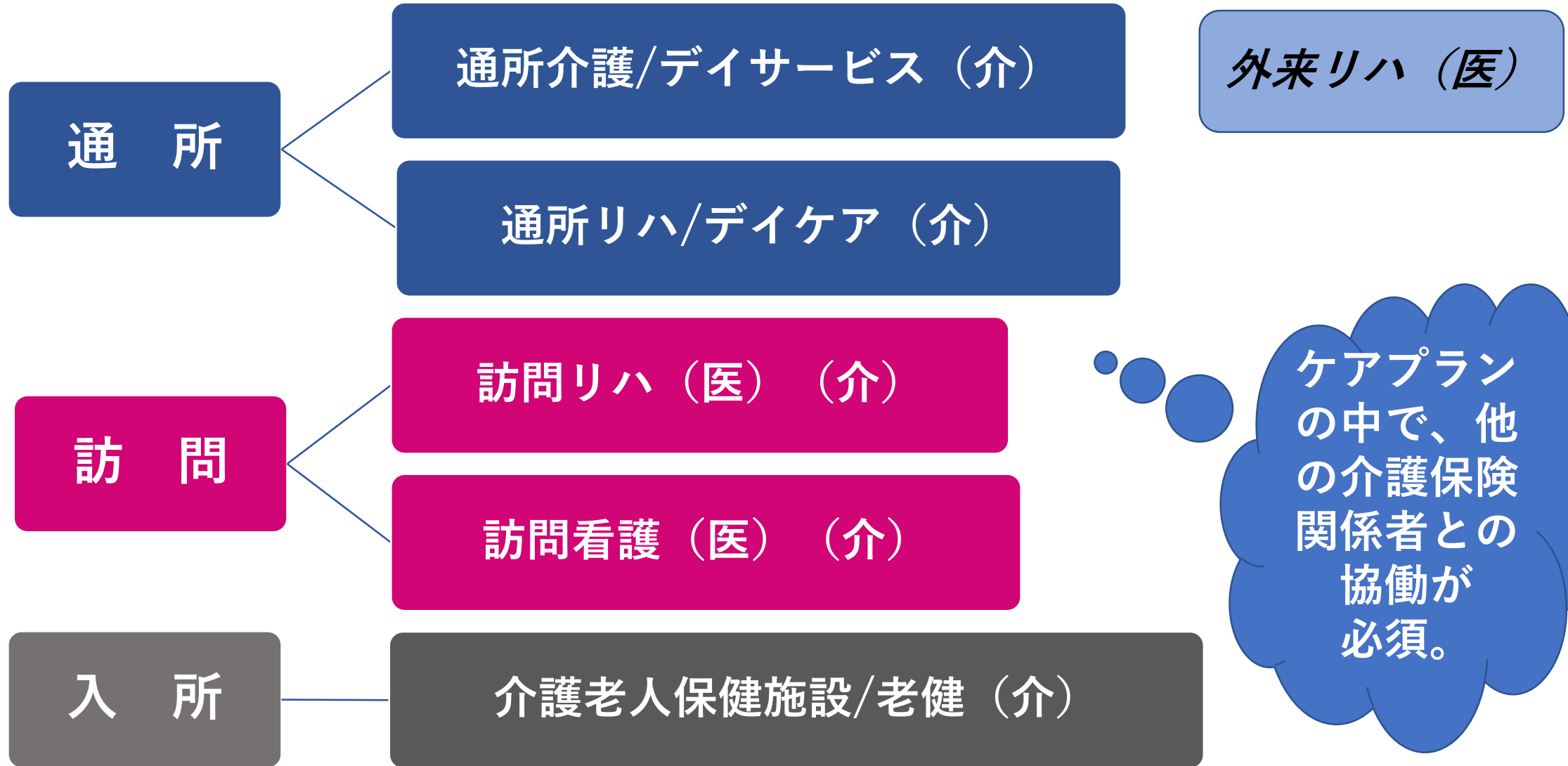
介護負担軽減

- **生活期リハビリテーションサービス**の利用。
- 例) デイサービスの利用で、介護者の身体的負担減、時間が
できることで精神的にもラクになる。→介護継続を可能に。
- 本人への生活支援。→**身体的、精神的**介護負担を軽減。
- **ソーシャルワーク**の活用。社会資源を活用→**経済的**介護負担
軽減へ。

リハビリテーションでQOLを支える

- 「活動と参加」
- その人なりの**生活の質の向上**を目指す。
例) 車いす乗車で生活圏を広げる→社会参加しやすくなる。
- やりたい、という気持ちを支える。
例) 「旅行したい。」→生活の充実と人生の満足を支援。
- いわゆる身体的自立が困難な利用者の場合や終末期の場合、**尊厳を守る**支援を検討する。

生活期リハビリテーションサービスの枠組み



退院後の生活期リハサービス利用のイメージ

たとえば、52歳男性、脳梗塞右麻痺、失語症で自宅退院されるとしたら・・・

退院（急性期、回復期、地域包括ケア病棟、など）

入所

特養

介護医療院

介護老人保健施設

短期入所療養介護

入退所

訪問介護（ヘルパー）

生活機能向上連携加算

生活機能向上連携加算

訪問リハビリテーション

社会参加支援加算

訪問看護

退院

在宅

通所介護（デイサービス）

生活機能向上連携加算

通所リハビリテーション（デイケア）

生活行為向上リハビリテーション実施加算
社会参加支援加算

介護予防事業

（地域リハビリテーション活動支援事業）

外来リハ（医）

たとえば、訪問リハビリの利用は

介護保険

症 例	疾 患 名	介護度	
89歳、女性	アルツハイマー型認知症	要介護4	小規模多機能のお迎えを嫌がる。閉じこもりがち。
70歳、男性	頭部外傷	要介護3	高次脳機能障害が重く、介護に手間がかかっている。通所施設へつなげたい。
90歳、女性	脳梗塞	要介護5	重度脳梗塞後寝たきり。介助方法指導。
68歳、男性	胃がん術後	要介護 2	心身共に虚弱へ。通所施設利用を支援。
63歳、女性	ALS	要介護 3	身体1級。独居を支える工夫。→施設入所支援。

医療保険

症 例	疾 患 名	身体障害者手帳	
64歳、女性	脳出血	なし	復職支援。
38歳、女性	脳腫瘍術後	身体1級	3肢障害、重介護。外出支援等。
26歳、男性	脳幹脳炎、小脳炎	身体1級	復学支援。

何か
できないかな、
それが
リハビリ。

- 高齢になっても病気などで障害を抱えても、その人らしく、健やかに生活できるよう支援する方法がリハビリテーション。
- ”生活のしづらさ”を変えるには地域づくりも必要。
- 医療介護連携のリーダーには、リハビリの視点を持って地域と地域住民を支えることが期待されている。